

花月川の河川改修と市道の改良

丁寧な住民説明や要望を踏まえた取組に

昨年の豪雨程度の雨に対応できるように、河川整備と市道改良に取り組んでいます。内水や住宅の移転など住民の不安をふまえての取り組みが求められます。

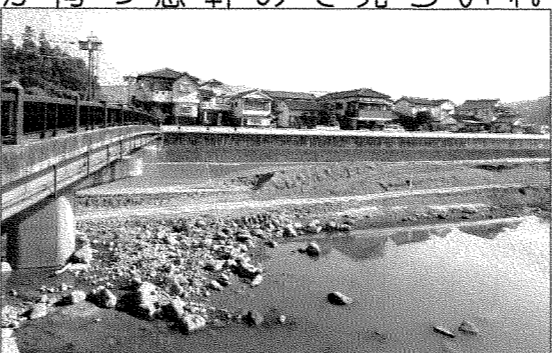
氾濫して越水した花月川の右岸側（丸山町、吹上町）の河道を拡幅し改修して、昨年の豪雨程度に対応できる河川改修の計画が進んでいます。

拡幅は最大で15メートルとしています。市はこれに伴って市道二郎丸西有田線の街路変更のために調査をする予算1500万円計上しています。

地元住民から「30数年前に移転してまだ動かなければならないのか」「住宅が市道より下がるのではないか」「道路が高くなれば、雨水がはけず、新たな内水氾濫になるのではないか」などの不安が出されています。

大谷市議は「様々な不安のある地域住民に設計ができた段階で丁寧な説明と住民との合意ができる計画にするよう」に求めました。

土木建築部長は「河川と道路と住宅との位置関係が見えてくれば、いろいろな意見が出てくるので1軒1軒意見をしっかりと聞き取りながらいなが



ら、どういった構造にするかという設計なる」と述べました。

花月川は毎秒流量1200トが限界

今回1100トから1200トに河川整備計画を変更し、それに基づいた整備をします。大谷市議は「1200トの河川整備は、上流にダム又は遊水地など貯留施設を作るのが前提条件か」と質問。

部長は「1200トが限界という前提で洪水調整施設の検討が必要」と答弁。

大谷市議は「通常は水を流し豪雨の時に調整するのならよいが、常に水をためるダムは水質が心配される」と指摘。部長は「基本的には貯水的能力が優先するが詳しいことは把握していない」と答弁。

基金を活用し引下を

国保税

子育て世帯の支援策で均等割り軽減を提案

4月1日から、国民健康保険制度が、県と市町村の共同運営（広域化）になります。県の算定の標準保険料率では、日田市は平成28年度と比べると一人あたり平均338円引き上げられます。モデル世帯（40代夫婦と子ども2人、夫所得250万円、妻なし）では年額約57万5千円となり3万8千円の引上げです。日

田市は6月議会で国保税を決めます。日田市の国保会計では、平成29年度決算見込みを含めると、国保準備基金は3億3千万円になる見込みです。大谷市議は「基金を活用

一人当たり1万円の引き下げ（総額1億7千万円必要）を求めましたが、福祉保健部長は答弁で「これ以上の引き上げが困難という中で、これまで法定外の繰り入れをしてきた」と経過を述べました。しかし、引き下げについては明言を避けました。

県下の大分市などでは、約4800円上がる算定ですが、市は据え置くとしています。臼杵市は952円上がる算定ですが、市長は引き下げると述べています。

大谷市議は国保税の負担軽減策の一つとして、子育て世帯の均等割りの軽減を提案しました。国保世帯は社会保険などと違い家族が多いほど負担が大きくなります。とりわけ子供がいる世帯は大変です。子育て支援として、全国では均等割りを軽減している自治体が増えていきます。全国知事会や市長会でも国に対策を求めています。部長は「子育て負担の軽減の必要性は市としても認識している」と答弁。大谷市議は「6月の税率改正の時に具体化するべき」と要求しました。